

3 住民向け在宅療養推進フォーラム・地域包括ケア市民フォーラムの振り返り

平成25年

住民向け在宅療養推進フォーラム ～住み慣れた我が家で暮らし続けるために～

日時：平成25年9月7日 場所：気仙沼プラザホテル 参加者：143名

病気があっても住み慣れた「我が家で」最期まで暮らし続けたいと希望したら、医療と介護の多職種が連携・協働して、願いや、思いをかなえられるような在宅療養システムがあります。

在宅医療の現場から、 今、皆さんに伝えたいこと



村岡外科クリニック
院長
村岡正朗氏

訪問診療を始めると「病院から出されたから。」という家族にしばしば出会います。在宅療養は病院から追い出されたために行うものではありません。自宅でも経管栄養や点滴などの処置を行うことが可能です。ご家族には、医療機関で出来ることと出来ないことの理解、在宅療養で出来ることと出来ないことの理解をしていただきたいです。また、何故、誰のために行くかを考えてほしいと思います。そのためにもケアマネジャーをうまく活用しましょう。

1 おうちへ帰るための気仙沼市立病院の取り組み

気仙沼市立病院 地域医療連携室 阿部孝子氏

市立病院には、総合患者支援室があり、いろいろな相談ごとに対応してくれます。医療資源が少なくなった今、病院受診の在り方がとても重要になってきました。必要な時に適切な医療が受けられる。それは市民ひとりひとりの協力やサポートする家族や病院・在宅支援チームの協力なしではできない事です。コロナ渦では、さらに重要性が高まってきました。一人で悩まずに相談してみる事です。また、退院時カンファレンスの活用をしてほしいです。



現在、私は訪問看護ステーションで働いております。最近医療依存度の高い患者様の訪問要請を受けることが多くなりました。コロナ渦での人数制限の影響かもしれませんが、ケアマネさんから退院前カンファレンスが終了してからの依頼が多くあります。私たちは、総合患者支援室に直接電話での問い合わせをして情報収集することや病院から直接電話を頂くこともあります。医療資源が少ない地域だからこそ、みんなでつなぐ意識を高めることが重要なのではないのでしょうか。安心した暮らしを守るために。

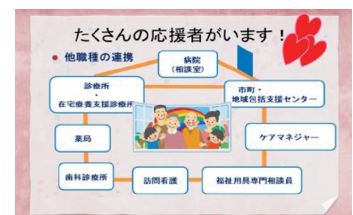
2 おうちで暮らすための制度について

気仙沼市地域包括支援センター 保健師 小野寺育子氏

私は、介護保険制度の概要についてお話ししながら、病気が障害があっても、おうちで暮らすための制度があること、また、気仙沼市には様々な専門職が連携して本人・家族を支えている仕組みがあることをお伝えしました。

発表者の打ち合わせでは、それぞれの立場から、患者のため地域のため、日々の仕事の中で大切にしていること、もっとこうしたい、こうして欲しいという思いを互いに出し合い、共有していく様子を間近で見聞きし、「連携する」ことの実際と、楽しさ大切さを学ばせていただきました。また、現場で患者・家族と向き合い、最後までその人らしく暮らせるように日々活動している専門職の方々が多くいることに刺激を受けました。

フォーラムと在宅医療・介護連携推進事業を通して出会えた皆様に感謝し、地域医療・保健福祉の担い手として、これからも日々精進していきたいと思っております。



3 ケアマネジャーの仕事と在宅療養の様子

広域介護サービス気仙沼 小松治氏

第1回目の開催であったことから、ご参加いただいた方に介護保険に於けるケアマネジャーの役割等について具体的に解りやすく説明できればと考えスライドを作成しました。

内容は大きく二つに分け「ケアマネジャーは、どのような仕事をしているのか」と、「在宅療養・介護をしている方は、どのような生活を送っているのか」をお伝えし、在宅療養・介護を一つの選択肢として認識していただきたく、難病(ALS)を抱えながらも前向きに生活し、多職種のサポートを受けて外出等をしていた吉田京子様にご協力をお願いしたところ「私でお役に立てるのであれば」と快くご了解をいただき、吉田様の事例を通して、どのような人たちが在宅生活をサポートしているのかを説明し、またケアマネジャーは「本人と、その家族をも含めた日常生活全般を、様々な機関と連携しながら、必要な支援を考え、連絡・調整している職種」であり、お気軽にご相談いただきたいことをお伝えしました。